日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第５回大会プログラム

The ５ th Annual Conference of

the Japanese Association for Research on Children of Divorced Families and Stepfamilies

テーマ：離婚・再婚家族にかかわる「子どもの声」を聴く

―その現状と課題―

2022. 10. 29－30

立正大学 ＆ オンライン開催

©日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第５回大会開催にあたってのごあいさつ

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第5回大会は、立正大学でお引き受けすることになりました。大会委員長として、一言ご挨拶させていただきます。

コロナ禍の中、会員の皆様はいかがお過ごしになっておられるでしょうか。前回大会、すなわち第 4 回大会はオンラインの開催でした。今回の第 5 回大会は、ぜひとも対面の大会にしたいと願って企画し、結果として、会場参加とオンラインを併用するハイブリッドの大会とすることに決定いたしました。当初の希望はかなえられたといえます。

開催日時:10 月 29 日(土)30 日(日)

開催場所:立正大学品川キャンパス3号館およびオンライン。

大会のメインテーマは、「離婚・再婚家族にかかわる『子どもの声』を聴く―その現状と課題―」。

基調講演(10 月 29 日 13:30～):子どもの声を聴く技術:橋本和明氏(国際医療福祉大学)。

大会シンポジウム(10 月 29 日　基調講演後):子どもの声を聴く意義

シンポジスト:菅原ますみ氏(白百合女子大学)

堀正嗣氏(熊本学園大学)

10 月 29 日(土)、30 日(日)の両日、興味深い研究発表やラウンドテーブルが行われます。

本学会の構成メンバーは法学者、心理学者、社会学者、弁護士、面会交流支援者、福祉関係の実務家、家庭裁判所調査官など、じつに多種多様、雑多な構成となっております。きわめて学際的な色彩の強い学会ということになります。我々大会委員一同、会員等の多くの方に喜んでいただける内容にしたいと鋭意取り組んでおります。

さて、開催地である立正大学品川キャンパスは、JR 山手線、大崎駅から徒歩 5 分程度の、交通の便の良いところに位置しております。遠方からおいでになる場合は、東海道新幹線も停まる品川駅の隣の駅が大崎駅とご理解いただければと思います。

ぜひ、多くの会員の皆様とお目にかかり、大会を皆様とご一緒に盛り上げていきたいと存じます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

第5回大会委員長　村 尾 泰 弘

目次

大会スケジュール 4

大会参加者へのご案内 5

研究発表，ラウンドテーブル企画者の方へのご案内 7

基調講演 8

大会シンポジウム 9

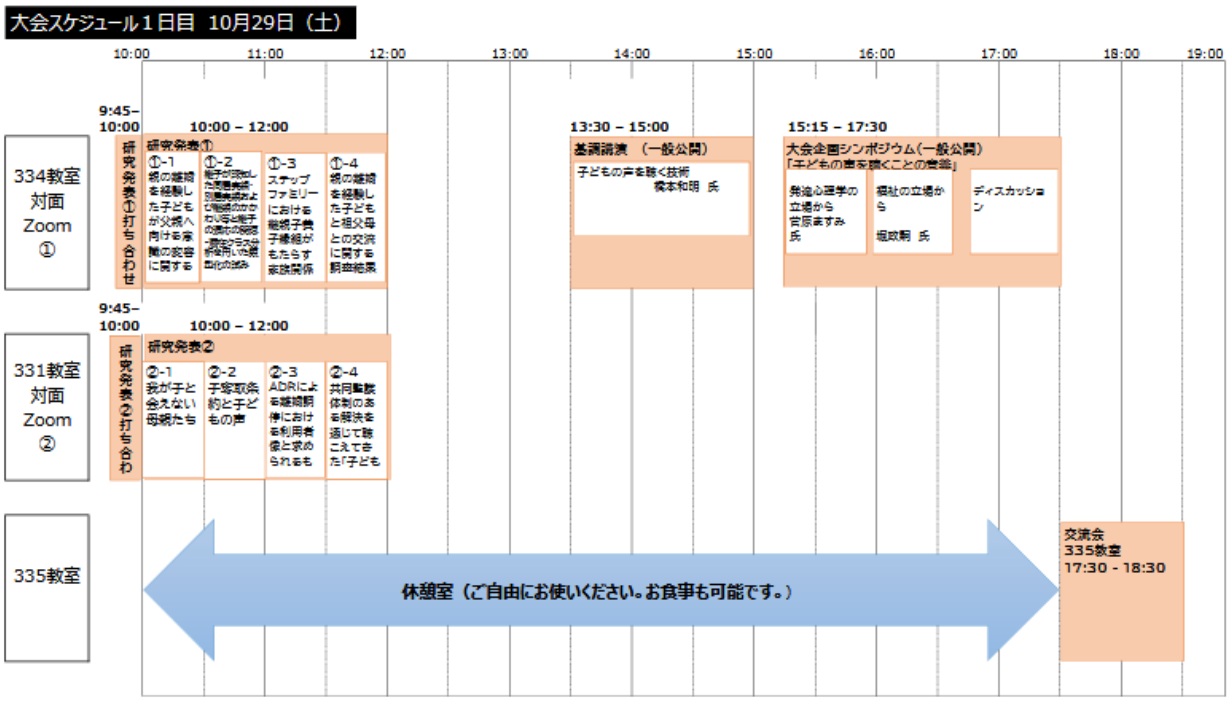
研究発表① 11

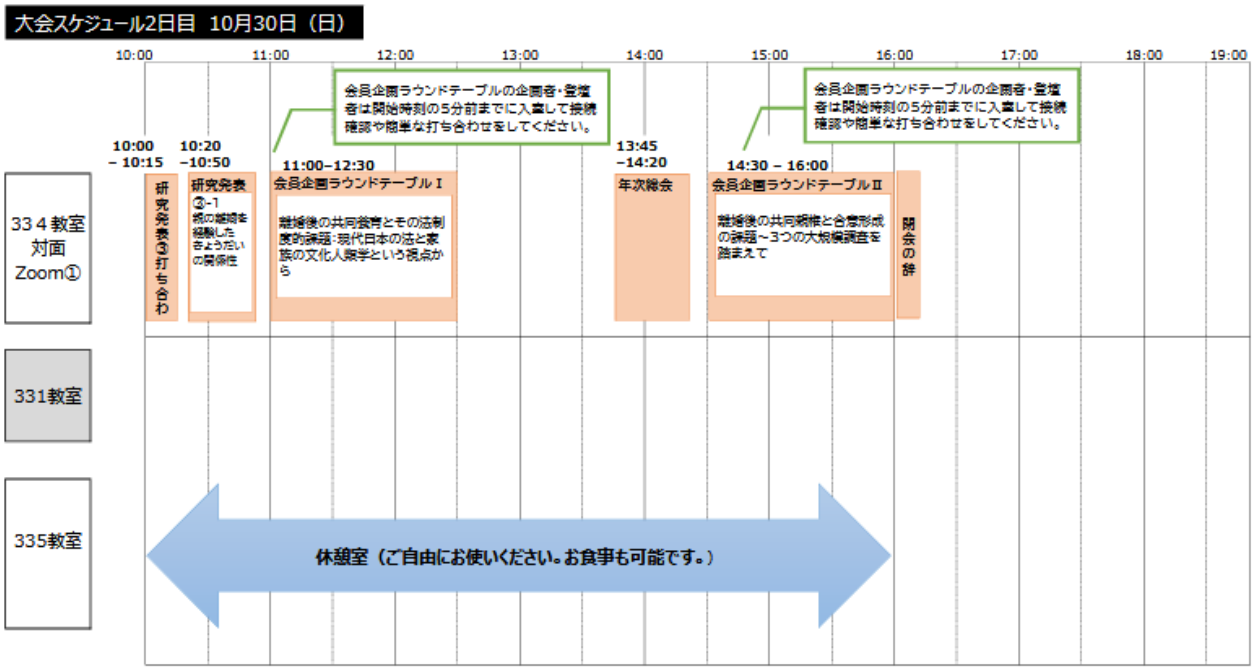
研究発表② 12

研究発表③ 13

会員企画ラウンドテーブル①② 14

大会スケジュール

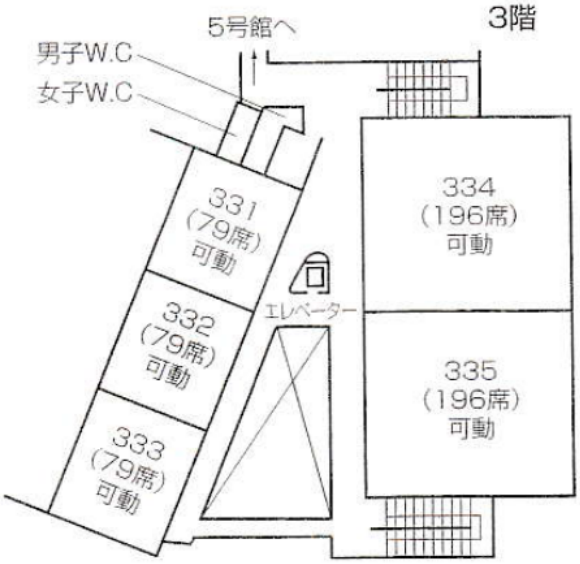

大会スケジュール1日目 10月29日（土）
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
18:00
19:00
334教室
対面
Zoom
①
9:45–10:00
研究発表①打ち合わせ
10:00 – 12:00
研究発表①
①-1 親の離婚を経験した子どもが父親へ向ける家族の変容に関する
①-2 親子が別々に暮らす家族における親子関係の変化 ～高校3年生の親子関係に関する調査結果～
①-3 ステップファミリーにおける継親子関係が もたらす家族関係
①-4 親の離婚を経験した子どもと祖父母との交流に関する調査結果
13:30 – 15:00
基調講演 （一般公開）
子どもの声を聴く技術
橋本和明 氏
15:15 – 17:30
大会企画シンポジウム（一般公開）
「子どもの声を聴くことの意義」
発達心理学の立場から
宮原ますみ 氏
福祉の立場から
根政嗣 氏
ディスカッション
331教室
対面
Zoom
②
9:45–10:00
研究発表②打ち合わ
10:00 – 12:00
研究発表②
②-1 我が子と会えない母親たち
②-2 子等取条約と子どもの声
②-3 ADRによる離婚調停における利用者像と求められるも
②-4 共同親権体制のあり方を解決を通じて乗こえてきた「子ども
335教室
休憩室（ご自由にお使いください。お食事も可能です。）
交流会
335教室
17:30 - 18:30


大会スケジュール2日目 10月30日（日）
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
18:00
19:00
会員企画ラウンドテーブルの企画者・登壇者は開始時刻の5分前までに入室して接続確認や簡単な打ち合わせをしてください。
会員企画ラウンドテーブルの企画者・登壇者は開始時刻の5分前までに入室して接続確認や簡単な打ち合わせをしてください。
33４教室
対面
Zoom①
10:00 – 10:15
研究発表③打ち合わ
10:20 –10:50
研究発表
③-1 親の離婚を経験した きょうだいの関係性
11:00–12:30
会員企画ラウンドテーブルⅠ
離婚後の共同養育とその法制度的課題：現代日本の法と家族の文化人類学という視点から
13:45 –14:20
年次総会
14:30 – 16:00
会員企画ラウンドテーブルⅡ
離婚後の共同親権と合意形成の課題～3つの大規模調査を踏まえて
閉会の辞
331教室
335教室
休憩室（ご自由にお使いください。お食事も可能です。）

大会参加者へのご案内

1.　会場と使用ツール

場所：立正大学　品川キャンパス　３号館３階　（東京都品川区大崎４丁目２番１６号）



３号館３階案内図

（「可動」とは机と椅子が可動であることを指します。）

３号館は建物に大きく「３」と掲示されています。

基調講演｜対面・Zoom ビデオウェビナー

シンポジウム・研究発表・ラウンドテーブル｜対面・Zoom ミーティング

（アクセスに必要な情報は、大会７日前に配信予定の大会参加者宛のメールにてご案内します。）。

2.　受付（会場参加の方）

３号館３階　受付窓口で、受付して参加証を受け取ってください。（大会期間中は，参加証をおつけください。）

3.　大会本部

場所：　　333 教室（同階）

・大会開催中の問い合わせ窓口ほか，会員の交流スペースとして終日開放いたします。論文の抜き刷り，ご所属団体のチラシやパンフレットなどを置いてただくことも可能です。各種情報交流スペースとしてご活用ください。

・飲食が可能となっております。昼食時等にご利用ください。お茶菓子の準備もございます。

4．交流会

日時｜大会 1 日目（10 月 29 日・土）18：00－19：00　　シンポジウム終了後　335 教室にて

＜ご注意＞

（1）　　事前のお申し込みは不要です。 非会員の方も参加できます。

（2）　　追加料金はかかりません。

5．年次総会

日時｜大会 2 日目（10 月３０日（日））13：45－14：20

場所｜334 号教室及び Zoom

学会に対する会員の皆さまの期待やご意見をお聞かせください。

6．　非会員の参加について（基調講演とシンポジウム・交流会のみ）

基調講演、シンポジウムおよび交流会のみ、非会員の一般の方は参加できます。なお、シンポジウム時の質疑は学会員のみとさせていただきます（オブザーバーとして質疑を聴かれてもかまいません）。

7．オンライン参加にあたって厳守していただきたいこと

参加申し込み時に、すべての企画についての守秘義務および、録音・録画・写真撮影を行わないことに同意していただいておりますので、その旨ご了承ください。

8．書籍販売ブースついて

332 教室で書籍販売を行っております。また、大会プログラムの巻末に出版社様の広告を掲載させていただいております。ぜひ御覧ください。

9．お問い合わせ

・会場や大会全般に関するお問い合わせ　第５回大会事務局へ　2022office@jarcds.org

・入会等に関するお問い合わせ　学会事務局へ　info@jarcds.org

研究発表，ラウンドテーブル企画者の方へのご案内

1. 【必須】マニュアルについて

研究発表（口頭）を行う会員やラウンドテーブル企画者は，事前に大会ホームページに掲載されているマニュアルの該当部分をご一読ください。発表の準備や当日の進行は，マニュアルに従って進めてください。マニュアルは，随時（開催当日中にも）改訂される可能性があります。ときどき，こちらのページで最新バージョンをチェックしてください。

2. 【必須】発表時に画面共有するスライドや資料の提出について

研究発表（口頭）を行う会員やラウンドテーブル企画者は，発表時に画面共有するスライドや資料等を，10 月 28 日（金）正午までに PDF 形式で大会事務局（2022office@jarcds.org）宛のメール添付ファイルで提出してください。発表中にインターネット通信トラブル等で発表者が発表できなくなった場合に，大会事務局が代理でその資料を提示することがあります。トラブル等がなかった場合には資料は提示せず，他の目的で使用することもありません。

3. （任意）配布資料について

研究発表（口頭）を行う会員やラウンドテーブル企画者で事前に配布したい資料等がある場合は，当日、会場で必要と思われる部数を事前にご用意していただくと同時に、オンライン参加者のために 10 月 28 日（金）までに PDF 形式で大会事務局（2022office@jarcds.org）に提出（添付ファイル送信）してください。大会に参加申し込みをした人のみが資料をダウンロードできるように大会ホームページに掲載します。

4. 【必須】事前打ち合わせについて

10 月 29 日に研究発表（口頭）を行う会員は，発表当日（9：45－10：00 を予定）に研究発表者・司会者・大会事務局で打ち合わせを行います。オンラインで発表する場合も同様です。

10 月 30 日に研究発表（口頭）を行う会員は、発表当日（10：10－10：20 を予定）に研究発表者・司会者・大会事務局で打ち合わせを行います。ラウンドテーブル企画者は，登壇者と共にラウンドテーブル開始時刻の 5 分前までに、ラウンドテーブルで使用する Zoom ミーティングに接続し，簡単な段取りの確認を行うようにしてください。

基調講演

10 月 29 日 13：30－15：10 対面会場（334 教室） & Zoom

「子どもの声」を聴く技術

講 演 者 ｜ 橋本 和明 （国際医療福祉大学教授）
司 会 ｜ 村尾 泰弘 （立正大学）

子どもは素直で自身の気持ちや思ったことを口にするため，周囲にはわかりやすいと思う人がいる。しかし，それは正反対であるかもしれない。子どもは自分の中に抱えている複雑な気持ちを言葉にする能力をまだ身につけていない。ましてや不安感や罪障感などがあった場合など，自分の気持ちを表出することにブレーキをかけ，言葉にすることさえためらう。さらに言えば，子どもと大人という年齢のギャップ，そして力の差もそこには少なからず影響し，「大人の言うことが正しい」，「自分の言うことは取るに足らないことだ」とあえて主張を退けてしまう。いずれにせよ，子どもの声が大人に届かず，大人の方もそのことに自覚がないまま事態を見過ごしていく。すると，どこかでさまざまな問題が噴出し，そこでようやく互いに声がかみ合ってなかったり，自分の声が相手に受け取ってもらえていないことを知る。

子どもにかかわる専門職として，彼らが何を考え，何を望んでいるのかの声を聴くことは大切であることはわかっている。しかし，それをどう聴くのか，聴いたことをどう伝えるのかはまだまだ不十分であると言わざるを得ない。心の傷付きが深く，過酷な環境に置かれている子どもほど，本心が奥深くにしまい込まれているのでなおさらである。

子どもの声を聴くことは，子どもの置かれている事実に少しでも近づくことである。接近する方法は一つとは限らない。そこに共通するのは，①何度も仮説を生成し，それを検証することを繰り返すこと，②主観的事実と客観的事実の区別を明確にしてバランス感覚を維持すること，③聴く側が自己を客観的に捉える視点を持つこと，である。事実には物事を動かすエネルギーが内包されている。しかし，それを安易に手に入れようとすると，相手を傷付け，時には倫理問題まで発展してしまう。声を聴き届けるためにはそれなりの作法が求められる。

。

大会シンポジウム

10 月 29 日 15：15－17：30 対面会場（334 教室）＆ Zoom

子どもの声を聴く意義

シンポジスト ｜ 菅原　ますみ（白百合女子大学）
シンポジスト ｜ 堀　正嗣（熊本学園大学）（オンライン）
司　　会 ｜ 村尾　泰弘（立正大学）

【企 画 趣 旨】

家族内に紛争が生じたとき、子どもへの影響はなるべく少ないに越したことはありません。子の最善の利益（子の福祉）といわれる所以です。しかし、言うは易く行うは難しなのが実情ではないでしょうか。まず子が発しようとしている声に、じっと耳を傾ける必要があります。家庭裁判所における子の親権をめぐる紛争や、非監護親と子の面会交流をめぐる紛争において、それはかなり以前から問題にされてきました。「古い革袋に新しい酒を」という比喩にあるように、今一度、子どもにどのように寄り添えば真の気持ちを引き出せるか、考えてみたいと思います。

発達心理学の立場から「子どもの声を聴く意義」を考える　15:15～15:55（40 分）

菅原ますみ（白百合女子大学）

【報告要旨】

別居・離婚は、子どもにとってもっとも大きなストレスを伴うライフイベントのひとつです。両親の不和に始まり、家族の解体と再婚を含む新しい生活の構築に至るプロセスのなかで、どの年齢の子どもも様々な困難を経験します。これまでの海外を中心とした発達心理学的研究から、子どもが両親間の葛藤・対立や別居・離婚をどのように感じ、考えるかが、離婚後の子どもの適応に影響する重要な要因であることが明らかにされてきています。本報告では、別居・離婚を子どもがどのように体験しているか探究することを目的としておこなわれた近年の研究や、2021 年に法務省が実施した「未成年時に親の別居・離婚を経験した子に対する調査」（未成年時に父母の別居・離婚を経験した 20 代及び 30 代の男女計 1,000 名が調査対象となりました）の分析結果をもとに、渦中の子どもの声を聴くことの意義について、一般的な子どもの心理的な発達を踏まえながら考えていきたいと思います。

子どもアドボカシー研究の立場から「子どもの声を聴く意義」を考える　15:55～16:35（40 分）

堀正嗣（熊本学園大学）

【報告要旨】

子どもアドボカシーは子どもの権利条約が規定する「子どもの意見表明権」を保障するためのものであり、その実践者をアドボケイトと呼ぶ。本年６月の児童福祉法改正により新設された「意見表明等支援事業」は独立専門アドボケイトの導入に係るものである。独立とは、利害関係を持たない第三者が子どもの側に立つという意味である。専門とは、養成研修やSV により子どもの声の傾聴・意見形成支援・意見表明支援・意見実現支援の技術を有するという意味である。こうしたアドボケイトが、「子どもの意見を傾聴し、それを相応に考慮して意思決定を行う」ように意思決定者に働きかける実践が日本各地で行われている。

離婚などの際に、面会交流支援者や子どもの手続き代理人は、独立アドボケイトに近い活動を行っている場合がある。しかし、必ずしも独立性と専門性が担保されているわけではなく、子どもアドボカシーの理論と実践を導入することが求められている。

研究発表①

10 月 29 日 10:00－12:000

① 会場（３34 教室） ＋ zoom

10:00－10:30

①－１ 親の離婚を経験した子どもが父親へ向ける意識の変容に関する研究

楊悦誠（茨城大学大学院）

本研究の目的は、親の離婚によって父親が不在となった状況を検証しつつし、父親不在が子どもの父親意識の変容に及ぼした影響について検討するものであった。親が離婚した中国人大学生を対象とした半構造化面接を行った。インタビューを通して、中国人の家族観において、両親が別れたとしても、親子の絆は依然として存在しており、一緒に暮らしている家族の一員ではないが、血縁関係を無視できないことが分かった。

10:30－11:00

①－2 継子が認知した同居実親・別居実親および継親のかかわり等と継子の適応の関連

――潜在クラス分析を用いた類型化の試み――

直原康光（富山大学）、野沢慎司（明治学院大学）、菊地真理（大阪産業大学）、安藤智子（筑波大学）

親の離婚・再婚を経験し，現在青年・成人期の継子を対象に，過去の同居実母，別居実父および継父のかかわりや親同士の関係性と現在の心理的適応との関連を検討することを目的として，20－29 歳の男女に調査協力を求め，421 名を分析対象とした。同居実母，別居実父および継父のかかわりや親同士の関係性得点を用いて，潜在クラス分析による類型化を行い，クラス間で適応に差があるかを比較した。その結果，実親・継親ともに良好な関係を構築していたと認知していた群および別居実父とは交流がなかったものの，同居実母および継父との関係が良好であった群において，抑うつ・不安や攻撃性得点が低いことが明らかになった。

11:00－11:30

①－３ ステップファミリーにおける継親子養子縁組がもたらす家族関係への影響

菊地真理（大阪産業大学）、野沢慎司（明治学院大学）

本報告では、「連れ子養子」が多くを占めるとされる普通養子縁組制度とその離縁の実態をとりあげ、法的親子 関係の選択が継親子関係などの家族関係に及ぼす影響について検討する。2021 年に実施した同居親である母親 19 名を対象としたインタビュー調査から、同居母から見た継父の役割行動と子どもの反応への影響を分析し、現行の養子縁組制度と離婚・再婚後の家族観との間で生じている齟齬を指摘する。

11:30－12：00

①－４ 親の離婚を経験した子どもと祖父母との交流に関する調査結果

野口康彦（茨城大学）、野沢慎司（明治学院大学）、青木聡（大正大学）

本発表では、インターネットリサーチ会社に依頼をした親の離婚を経験した子どもと祖父母との交流の実態について報告をする。特に、祖父母との同居の経験ない 20 歳から 39 歳までの回答者による「祖父母の存在」に関する自由回答記述の質的な分析を中心としたい。

研究発表②

10 月 29 日 10:00－12:00

② 会場（331 教室） ＋ zoom

10:00－10:30

②―１ 我が子と会えない母親たち

鈴木明子（中央大学）

従来、別居・離婚にあたって我が子に会えない父親の存在についてはさまざまに指摘されてきた。そうした中、我が子に会えない母親が増えているとの指摘が近年なされるようになってきている。離婚後の親権者の割合は、1960 年代には父親から母親へスイッチし、増え続けている。こうした状況で我が子に会えない母親が増えているといわれる現状について、新出資料と面会交流を求める母親への質的調査によって報告したい。

10:30－11:00

②―２ 子奪取条約と子どもの声

嘉本伊都子（京都女子大学）

本発表は、「日本における子奪取条約と子どもの声」 として『現代社会研究科論集』16 (2022)にまとめたなかから、特に子どもの声が聞き取られたケースのみとりあげる。報告者は社会学が専門で、法律を専門とするものではない。今大会の基調講演ならびにシンポジウムのテーマでは、メインイシューとしてはあつかわれない「声」をとりあげたい。

11:00－11:30

②―３ ADR による離婚調停における利用者像と求められるもの

小泉道子（一般社団法人家族のための ADR 推進協会）、村尾泰弘（立正大学）

ADR による調停によって離婚協議を行った利用者に対し、web アンケート調査を行いました。ADR を利用する人が何を動機として利用に至っているのか、また、ADR は、同席調停やオンライン調停が可能な点が特徴的ですが、そういった特徴が成立率や満足度にどんな関係があるのか（もしくは関係がないのか）等について考察しました。

11:30－12:00

②―４ 共同監護体制のある解決を通じて聴こえてきた「子どもの声」

古賀礼子（第一東京弁護士会）

親の地位を尊重する観点に沿って離婚事件を解決していたところ、宿泊付を含む充実した交流や共同監護といえる体制の養育環境を実現していく実例が積み重ねている。そうした実務において、共通して体験しているのが、パパとママと一緒に暮らしたい、ケンカしないで欲しいといった子どもの純粋な気持ちであり、かえって新鮮な発見を覚える中、そうした子どもの声に向き合っていながら最適解はどうあるべきか、報告する。

研究発表③

10 月 30 日 10:20－10:50

③ 会場（334 教室） ＋ zoom

10:20－10:50

③―１ 親の離婚を経験したきょうだいの関係性

曽山いづみ（神戸女子大学）、大瀧玲子（東京都立大学）

第一筆者が実施した親の離婚を経験した子どもへのインタビュー調査（曽山, 2021 など）の中から、きょうだいについて得られた語りを抜粋して M-GTA を用いて分析した。きょうだい間で支えあうようなカテゴリが作成された一方で複雑で微妙な関係を示すカテゴリも作成され、きょうだい関係の複雑性・多様性が示された。

会員企画ラウンドテーブル

Ⅰ｜会場　　334 教室＋Zoom　　10 月 30 日 11:00－12:30

離婚後の共同養育とその法制度的課題：

現代日本の法と家族の文化人類学という視点から

企　画　者 ｜ 濱野健（北九州市立大学）、Allison Alexy（University of Michigan）、野沢慎司（明治学院大学）
話題提供者 ｜ 濱野健（北九州市立大学）
話題提供者 ｜ Allison Alexy（University of Michigan）（オンライン）
話題提供者 ｜ 野沢慎司（明治学院大学）

本企画では、アメリカの文化人類学者の視点から現代日本における離婚をとりまく文化的背景や社会的課題を明らかにしようとした「離婚の文化人類学：現代日本における〈親密な〉別れ方」（みずず書房、2022 年）の訳書刊行を記念して、原著者のアリソン・アレクシー（ミシガン大学人文科学部准教授）氏を中心に、家族と法の文化人類学という「まなざし」から見えてくる、離婚後に別れて暮らす家族や親子のあり方の現実とその課題について多面的に論じる。

Ⅱ｜会場　　334 教室＋Zoom　　10 月 30 日 14:30～16:00

離婚後の共同親権と合意形成の課題～３つの大規模調査を踏まえて～

企　画　者 ｜ 二宮周平（立命館大学）、福丸由佳（白梅学園大学）、小田切紀子（東京国際大学）
話題提供者 ｜ 二宮周平（立命館大学）
話題提供者 ｜ 福丸由佳（白梅学園大学）
話題提供者 ｜ 小田切紀子（東京国際大学）

法制審議会家族法制部会では、離婚後の子の養育に関して単独親権、共同親権を選択できる制度が検討対象となっている。共同親権は、離婚後も父母が子の養育に関わる仕組みであり、父母の合意がなければ実行は難しい。そこで共同親権の意義と法的な枠組み、2021 年に実施された 3 つの大規模ウェブモニター調査の分析、離婚後の子の養育に関する親教育（ガイダンス）の実践例などから、離婚後の共同親権と合意形成の課題を抽出する。

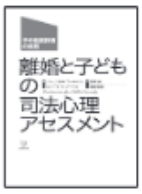
離婚と面会交流
子どもに寄りそう制度と支援

小田切紀子，町田隆司 編著

子どもの権利として面会交流を実施し継続していくために。整備すべき制度，必要な支援，共有すべき考え方を展望する。

A5判　並製　244頁　定価3,520円

離婚と子どもの司法心理アセスメント
子の監護評価の実践



J・S・W・フールマン，R・G・ジーベル 著
田高　誠，渡部信吾 著

心理学は離婚と子の監護をめぐる司法手続にいかに貢献できるか。実証的な知見を網羅し，実務と研究に体系的な指針を示す。

A5判　並製　238頁　定価4,620円

ステップファミリーのきほんをまなぶ
離婚・再婚と子どもたち

SAJ，野沢慎司 編
緒倉珠巳，野沢慎司，菊地真理 著

ステップファミリーの基本知識をQ＆Aやマンガを使って学び、実親・継親・子どもたちすべてが幸せになるような人生へと導く一冊。

A5判　並製　192頁　定価2,420円

ステップファミリーをいかに生き，育むか
うまくいくこと，いかないこと

パトリシア・ペーパーナウ 著
中村伸一，大西真美 監訳

「ステップファミリー」，それは子連れ再婚により，血のつながらない親子関係が生じた家族。それらの家族に起こる問題への，実践的な解決法を提供します。

A5判　並製　350頁　定価4,620円

テキスト家族心理学

若島孔文，野口修司 編著

家族心理学の基礎研究から実践応用まで家族心理学研究の成果を網羅した、初学者から熟練者まで役に立つ決定版テキスト。

A5判　上製　288頁　定価4,620円

家族の心理
変わる家族の新しいかたち

小田切紀子，野口康彦，青木　聡 編著

恋愛・結婚・離婚・再婚・子どもと家族のライフサイクルに沿ったテーマを通して家族の現在をとらえる新しい家族心理学の教科書。

A5判　並製　204頁　定価2,860円

Ψ金剛出版　〒112-0005　東京都文京区水道1-5-16　https://www.kongoshuppan.co.jp/
Tel .03-3815-6661　Fax.03-3818-6848　＊価格は税込表示（10%）です。

法律文化社　京都市北区上賀茂岩ヶ垣内町71　＊表示は税込価格
https://www.hou-bun.com/

分野横断的に家族のリアルを問い、課題と展望を示す

家族の変容と法制度の再構築
◉ジェンダー／セクシュアリティ／子どもの視点から
二宮周平・風間 孝 編著　●A5判／380頁／6160円

序章　家族と法制度の変容 …… 二宮周平
1部　家族のリアルを問い直す
1　新自由主義以降の家族規範の変容とグローバル資本主義の展開 …… 海妻径子
2　子育て支援と家族主義―子どものケアをめぐる論理を書き換える …… 松木洋人
3　男の介護を通して見る「ケアとは何か」 …… 平山 亮
4　若者の結婚言説にみる結婚観の〈変質〉と親密性の変容 …… 永田夏来
5　ステップファミリー―複数世帯を横断するネットワーク家族の可能性と法制度の再構築 …… 野沢慎司
6　異性愛を前提とする家族概念をはみ出す同性パートナーシップ制度 …… 風間 孝
7　セクシュアルマイノリティの家族形成 …… 杉山麻里子
8　トランスジェンダーが子どもをもつこと―性別変更と生殖医療 …… 小門 穂
2部　法制度の再構築を考える
1　「近代家族」を超える―21世紀ジェンダー平等社会へ …… 三成美保
2　家族と民主主義 …… 田村哲樹
3　憲法・人権からみたジェンダーおよび親密圏 …… 齊藤笑美子
4　暴力とジェンダー―性犯罪、DV、セクハラを中心に …… 矢野恵美
5　セクシュアルマイノリティに関する国際社会の議論の到達点と課題 …… 谷口洋幸
6　子どもの権利保障―親子法制の見直し …… 大江 洋
7　子ども虐待対応に関する現行法の問題点と改正私案 …… 山田不二子
8　子どもの権利向上の視点からの「家族」支援法制の考察 …… 鈴木秀洋
終章　血縁・婚姻から意思へ―家族の法制度の再構築 …… 二宮周平

子どもの道徳的・法的地位と正義論
◉新・子どもの権利論序説
大江 洋 著　●4950円

ハーグ条約の理論と実務
◉国境を越えた子の奪い合い紛争の解決のために
大谷美紀子・西谷祐子 編著　●5720円

家族をめぐる法・心理・福祉
◉法と臨床が交錯する現場の実践ガイド
村尾泰弘 編著　●3190円

公認心理師のための法律相談 Q&A 100
津川律子 監修／野崎和義・舩野 徹 著　●2750円

【好評図書のご案内】

2000人のアンケート調査による客観的なデータ・統計値とその結果に基づいた分析を収録

未成年期に父母の離婚を経験した子どもの養育に関する全国実態調査とその分析

日本加除出版 編

【研究協力者】早稲田大学法学学術院教授 棚村政行／大正大学臨床心理学科教授 青木聡
福井大学子どものこころの発達研究センター教授 友田明美／東京大学経済学研究科教授 山口慎太郎

2021年7月刊 B5判 248頁 定価3,300円(本体3,000円)

現在日本でも議論の進む法改正に示唆を与える

離婚後の親子関係

新・アジア家族法三国会議 編

2022年9月刊 A5判 140頁 定価3,300円(本体3,000円)

LGBTQ＋の先駆的な80事例を掲載！

性的マイノリティと国際人権法

ヨーロッパ人権条約の判例から考える

青山学院大学法学部教授 谷口洋幸 著

2022年6月刊 A5判 412頁 定価7,700円(本体7,000円)

家事事件・少年事件の最新動向を追う唯一の判例雑誌

家庭の法と裁判
FAMILY COURT JOURNAL

家庭の法と裁判研究会 編

年6回(4・6・8・10・12・2月)発行 B5判
定価1,980円(本体1,800円)

近刊・バックナンバーの特集

39号 2022年8月 特集 ステップファミリーをめぐる諸問題

40号 2022年10月 特集 実務家による終活支援の実情と課題

41号 2022年12月 特集 現代の薬物非行―大麻問題を中心に（仮）

日本加除出版

〒171-8516 東京都豊島区南長崎3丁目16番6号
TEL(03)3953-5642 FAX(03)3953-2061（営業部）
www.kajo.co.jp ツイッターID:@nihonkajo

こちらからもご注文いただけます